

年間第25主日の説教

金 大烈 神父 2008年9月21日(日)

《あと1時間あります。私の所で働いて下さい》

お早うございます。お元気ですか？

今日の福音(マタイ 20:1-16)について考えてみますと、2つの面について私達は考える必要があるのではないかと思います。その為、もう一度今日の福音の中に入ってみましょう。

あるぶどう園の主人が雇う人を捜しに出ました。朝早く出て、夜明けに出会った人に「私のぶどう園で働いてくれたら1万円あげる」と話し、その人も承諾したので契約は成立し、ぶどう園に連れて行きました。しかし人手が足りず9時にも11時にも夕方5時にも人を捜しに出かけました。夕方ぶらぶらと手持ちぶさたにしている人がいたので訪ねると、雇い手がないとの事だったのでぶどう園に連れて行きました。そしてその日の仕事が全て終わった時、夕方5時から来た人から、賃金として1万円あげたので、夜明けから来て一生懸命働いていた人は「あの人が1万円だから、私は一体いくら貰えるのだろう、5万円はいくのでは」と甘い考えを抱いていました。しかし、朝早くから、また暑さの中で一生懸命頑張った人に支払われたのは同じ1万円でした。それを見たらその人が文句を言うのは当然の事ではないでしょうか。

皆様だったらどうしますか？丸一日汗を流して頑張ったのに、もうそろそろ帰る時間になった時に顔を出して、同じ対価を貰う者がいれば、果たしてきれいな目でその人を見ることが出来ますか？率直に言ってみて下さい。腹が立ちますか？立ちませんか？腹が立ちますよね。これが私達人間の考え方です。しかしイエス様が説明なさいました。『あなたと私は1万円で契約したではないか。そして1万円あげたのに何故文句を言うのか』と。

では腹が立った理由を考えてみましょう。自分は1万円貰える事を期待して一生懸命働きました。そして賃金を貰いました。自分の目的は達成したのです。しかし何もしなかった者が苦勞した自分と同じ様に1万円を貰うのを見たから腹が立つのです。誰に腹が立つのでしょうか。よく考えてみましょう。自分が貰うべきものを貰っても、何もしなかった者がもらうから腹が立つのです。

これが現在の世界の論理になってしまいました。ですから自分が2つ物を持っていても、それを必要としている人に一つを渡す事が出来にくくなった社会です。

さあ考えてみましょう。朝早く来たのが母親で、夕方来たのがその息子だったらどうでしょうか。息子が母親である自分と同じだけのものを貰ったらどの様な気持ちになりますか？腹が立ちますか？お母さん方どうですか？

「うれしい」そうでしょうか？結局、私達はこの様に冷たい社会に住んでいる事を意味します。広く考えてみますと、"私だけ"ではなく"他の人達"も救われたら、それが最高ではないか。これが信者である私達が望む世界です。しかし信者でありながらも、この物語を聞くと当然の様に腹が立ち、またその様な感情を見せるのが私達の姿です。

今日の福音を通して考えてみたいのは、"人間の考え方"と"神様のみ旨"は違うと言う事です。人間は限界があります。頭の限界、体の限界、全てに"限り"があります。しかし私達が信じている神様という存在は、限りが無い方です。"無限"の方です。限界がある者が限界の無い者を理解する事は無理な事です。無限であり、全てを存じている全知全能の神が、"人間を理解させなかったら"、人間は絶対神様を理解する事は出来ません。これが今日の福音で私達が悟るべきメッセージです。

私達は腹が立ちます、気分を害します。しかしイエス様は、「私はあなたとの約束を果たした。それであなたは喜ぶべきではないか。何故他の人に私の慈しみを見せた事に腹を立てるのか」と話して下さいました。これは私の個人的な考えですが、人類が始まって以来、人間が神様に願う時代は一回も無

かったと思います。

神様が "この様に生きて欲しい" と私達に願い、私達を導こうと、悟らせようといつも叫んでいらっしやっただのではないかと思います。

今日の一つの面、神様の考え方と私達の考え方には違いがあるということに気がきます。それでは、私達はどうすればよいか。それは「イエス様、私達が出来るだけあなたのみ旨に叶う様に正しく導いて下さい」「あなたのみ旨を悟らせて下さい」という強い願いが無ければ、私達は必ず外れてしまいます。いつも自分の頭に有る事が全部だと思ってしまうのが人間の癖です。自分の頭にある、限りあるものによって全てを計ろうとする事が、私達の一番かわいそうな、気の毒な弱さです。そういう事によって、何もならないものによって、今までどの位、人々を、色々な事を裁いて来たか考えてみましょう。イエス様が私達を悟らせて下さらなかつたら、神様が導いて下さらなかつたら、私達は絶対あの方のみ旨を悟る事が出来ません。 真理と言うものは自分が "悟る" ものでは無くて神様が "悟らせて下さる" ものです。それが信仰ではないでしょうか。

2番目、皆様とこの福音を通して考えたい事は、"時間" という観念です。時間とは何でしょうか。何故私達は時間に縛られているのか。これも人間の一つの癖であり、また常識だと思ってしまう事なのですが、たくさん時間を使ったものの方が時間を使わなかったものより、良い結果を得られると思ってしまうがちです。

そうでしょうか。 1時間勉強した者より、10時間勉強した者の方が優れるのは当たり前だと思ってしまう。しかし、不幸にも神様との考え違いがあります。

40年前に洗礼を受けて毎日曜日のミサに与っている人がいます。そして、人生の紆余曲折を体験しながら、ある事がきっかけで1ヶ月前に洗礼を受けた人がいます。2人の姿を比較してみますと、40年間、信仰の生活を送り、まじめに教会の教えに従いながら自分の生活を守っていた人。私達にはこの人は間違いが無いように見え、いつも信仰者らしい姿を見せています。しかしその人の中に40年間、1回も真の悔い改めと、それによるイエス様との真の出会いが無かつたら、この40年間はある意味で無駄です。逆に1ヶ月前、色々な痛み、色々な辛さによって洗礼を受ける事になり、その1ヶ月という短い間に真の悔い改め、真のイエス様との出会いが出来たら、その人はたった1ヶ月なのに、天国の体験をした事になるのです。

ですから、この様に私達は油断をしてはならないのです。私達はかけた時間を計りますが、時間をどの様に使っているか、何にどの様に時間を使っているのか、それをイエス様はおっしゃっているのではないのでしょうか。

今日の福音で「今日、私は働かなければならないのに、もう日が暮れようとしているのに、誰も私を雇ってはくれなかった」「今日私は飢えてしまうことになる」。そう思った人ががっかりしている時、『1時間残っているが、私の所に来て働いて欲しい』と言った主人の言葉に、その人が感じた“救い”の感覚、“救い”の気持ちはどの位だったのでしょうか。「これで私は生きられる」。どんなにかほっとした心だったのではないのでしょうか。

そうです。今日の福音をとおして2番目に考えなければならないのは、時間は大事ですが、時間をどの位かけたかという事より、その時間というものの中に、私はどのような姿で、どのような心で生きているのか。それが一番大事な事ではないのでしょうか。40年かけても、1ヶ月かけても、たった1日でも、その中に真の何かがあれば、その人は救われます。ですから、永い間信仰の生活なされた方は振り返ってみましょう。そしてまだ短い方は自分の事を深めようとする生活を送ってみましょう。そのような心の働きがあれば、イエス様は必ず導いて下さると思います。

ありがとうございました。